

BOOK Review

こんなときオスラー 『平静の心』を求めて



評者

中西 重清 中西内科院長

私が書評を書くに相応しい人間かどうかかわからないが、開業医の立場から解説する。ウィリアム・オスラーの『平静の心—オスラー博士講演集 (Aequanimitas)』(医学書院, 2003) は名著であるが、難解である。精読したいと思うが、数ページで挫折してしまうのは私だけではないかもしれない。3人のオスラーアン(オスラー伝道医師)が、わかりやすく実例を交えて解説し、臨床現場で平易に活用できる一冊としたのが、『こんなときオスラー—『平静の心』を求めて』である。

8つの大きな見出し(「臨床上の葛藤—医師と患者のはざま」「日々の勉強の中で」「教師と生徒」「進むべき道への迷い」「理想の医師像を求めて」「人生と平和と愛と」「付録」「オスラーの生涯と言葉」)で構成され、いつでも、どこからでも、気になったところから読める。臨床に悩んだときに探しやすい構図になっている。この厚さなら

軽いので寝転んでも読めるし、急患が来たら、読み止めることもできる。もうあなたは、『平静の心』を仮眠用の枕にしなくてもよいのである。なんて斬新な試みだろう。

中身は、オスラーのクリニカルパールが満載である。教養を身につけ、医師としてだけでなく、人として成長せよ。病気が相手ではなく、人が相手である。医療は病になっている人を診ているのであって、病気を治すのが先ではない。可能であれば、医学教育にも携わりなさい。著者の心の豊かさと深さ、厳しさが随所に垣間見える。オスラーにはなれないけれど、オスラーの心を知り、わが身の姿勢を正すことはできそうである。

『こんなときオスラー』というタイトルではあるが、いつも側に置いて欲しい、「どんなときもオスラー」が一緒にいて、貴方に語りかけてくるだろう。ひょっとすると、貴方の医師人生を変える書籍かもしれない。

平島 修, 徳田 安春, 山中 克郎 著

A5判/200頁/2019年/定価(本体2,400円+税)/ISBN978-4-260-03692-4/医学書院刊